

京北域保育所の今後の在り方に係る検討について

右京区京北地域においては、現在、3か所の市営保育所（ひかり、弓削、周山）を運営していますが、同地域における就学前児童数や保育所入所児童数が減少傾向にあることなどにより、子どもの乳幼児期における成長発達において重要となる、同年代の子ども同士の関わり合いの中で様々な経験や体験を行う「集団での活動を経験する機会の確保」が、難しくなりつつある現状が見られるようになってきています。

こうした状況を踏まえ、令和6年度において、本市から現状と今後の保育・保育所の在り方の検討の必要性を説明し、まずは、保護者をはじめとした地域の方々から意見を伺うために、意見交換会の開催のほか、より広く丁寧に意見を聴取するためにアンケートを実施してきたところです。

今後、保護者や地域の方々にかかれた形で「検討会」を実施するなど、更に意見をお聴きしながら共に具体的な検討を進め、令和7年度中を目途に、今後の保育・保育所の在り方に係る方針を策定してまいりたいと考えておりますので、御報告いたします。

1 現状

(1) 児童数

ア 京北地域における就学前児童数の推移 (単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
R 3	12	9	17	17	19	26	100
R 4	14	14	7	16	19	19	89
R 5	8	17	14	10	16	21	86
R 6	6	9	18	13	12	18	76
R 7	15	6	7	19	12	13	72
R 8(見込)	9	15	6	7	19	12	68

※1 住民基本台帳人口より引用

※2 各年度4月1日時点の数値。なお、R8の数値は予測値（前年度の0～4歳児を移行し、0歳児は過去3年間の平均児童数に過去3年間の就学前児童総数の増減率を乗じて算出）

イ 保育所入所児童数の推移 (単位：人)

歳児	ひかり保育所							弓削保育所							周山保育所						
	0	1	2	3	4	5	計	0	1	2	3	4	5	計	0	1	2	3	4	5	計
R 3	0	2	5	3	6	4	20	4	3	6	8	4	10	35	0	1	5	5	9	13	33
R 4	1	1	3	5	4	6	20	3	6	2	5	9	4	29	1	5	3	5	6	9	29
R 5	0	2	1	3	5	4	15	0	6	8	3	6	9	32	2	2	6	4	5	8	27
R 6	0	1	3	1	4	5	14	1	2	9	8	4	6	30	0	5	3	5	4	5	22
R 7	0	1	1	4	1	4	11	0	1	3	10	7	4	25	1	2	5	4	5	5	22
R 8(見込)	0	1	1	1	4	1	8	1	1	3	4	10	7	26	1	2	3	5	4	5	20

※ 各年度4月1日時点の数値。なお、R8の数値は予測値（R7児童数の0～4歳児を移行のうえ、過去3年間の4月平均入所児童数を加えて算出）

(2) 課題

- 児童数の減少により、各保育所において、持続的に集団での活動を経験する機会を確保することが困難となりつつあることに加え、子どもの人数に対し大人が多くなることで、子ども同士の関わりの中に必要以上に大人が介在する機会を多くさせることに繋がり、同年代の集団保育の中で社会性や人間関係を育んでいこうとする、保育所保育指針に沿った保育の実践に支障を生じさせる可能性がある。
- 保育所を運営するために必要な職員体制を確保するために、児童数に基づく配置基準以上の人員を配置しており、保育士の人材確保が課題となるなか、上記の保育への影響も踏まえ、適正な人員配置について検討する必要がある。

2 令和6年度中における取組概要

(1) 意見交換会

ア 参加対象者

- 京北3保育所入所中の保護者
- 今後保育所利用が見込まれる家庭（京北地域の未就園児世帯、妊娠中世帯）

イ 開催・参加実績

日時	場所	参加者数
R6. 7. 16 (火)	弓削保育所	16世帯16人(入所世帯数:25)
R6. 7. 17 (水)	ひかり保育所	10世帯12人(入所世帯数:12)
R6. 7. 19 (金)	周山保育所	6世帯6人(入所世帯数:18)

ウ 主な意見

- 集団活動を重視しておらず、京北地域の自然のなかで、少人数でゆったりと丁寧な保育を望んで京北地域の保育所を選んでいる。
- 同年齢の子が少ないのは寂しい。子どもが1人、2人になるとかわいそう。集団での活動の重要性は理解できる。
- 京北地域は面積が大きく、統合した場合、送迎の負担が大きくなる。働く環境を整えることが重要。
- 小中学校も統合しており、保育所から中学校卒業まで1つのコミュニティしかないのは不安。
- 保育所の在り方を考える以前に、京北地域の人口を増やす取組を考えてほしい。保育所が減れば、移住をあきらめる人が出てくる。
- 自然豊かで子育てに良い環境ではあるが、地域に産婦人科や小児科がなく、子育てがしやすい環境ではないので、改善してほしい。
- 一度意見を聞いて終わりではなく、継続して聞いてもらいたい。

(2) アンケート（設問内容は別紙参照）

意見交換会において、日程都合等により参加されなかった保護者もおられたことから、より広く丁寧に保護者の意見を聴取するために実施

ア 対象者

- 京北3保育所入所中の保護者
- 今後保育所利用が見込まれる家庭（京北地域の未就園児世帯、妊娠中世帯）

イ 実施期間

令和6年12月25日（水）～令和7年1月20日（月）

ウ 回答数

44世帯／66世帯（回答率：約67%）

（内訳） ひかり保育所：11世帯／12世帯（回答率：約92%）

弓削保育所：15世帯／25世帯（回答率：約60%）

周山保育所：11世帯／18世帯（回答率：約61%）

未入所：7世帯／11世帯（回答率：約64%）

エ 主な回答要旨

<保育所選択の理由（別紙問7）>

「自宅に近いから」（約27%）の回答が最多で、「職場に近いから」（約13%）の回答も含めると、約4割が保育所の立地を主な理由としている。

<保育所の満足度（別紙問8）>

「満足」（約84%）、「やや満足」（約14%）の回答が多く、満足度は総じて高い。主な理由としては、職員が親身であること、自然環境に恵まれていること、少人数で手厚い保育が受けられること等が挙げられた。

<望ましいと感じる同年齢の子どもの人数規模（別紙問9）>

「7～8人程度」（約30%）、「10人程度」（約27%）、「12～13人程度以上」（約21%）と、約7割以上が同年齢の子どもの7～8人以上いるのが望ましいと考えている。

一方、「集団の生活が望ましいと考えていないので、少人数での保育が望ましい」（約9%）との意見も一定数あった。

<保育所再編を行ううえで気になること（別紙問10）>

「少人数のきめ細やかな保育ができなくなるのではないかと感じる」の回答が最も多く（約31%）、次いで「送迎時間が長くなり負担が大きくなる」（約23%）の回答となった。

その他としては、保育所から小中学校まで選択の余地なく同じコミュニティとなることへの不安の意見などが見られた。

<保育所再編を行ううえで期待すること（別紙問11）>

「集団での保育により、社会性や人間関係を育む望ましい保育環境が整えられる」（約23%）と「保育内容の充実・質の向上が図られる」（約23%）の回答が最多であった。

<その他の主な意見（別紙問12）>

- ・ 集団保育ではなく少人数の保育を望んで、京北地域に住んでいる。
- ・ 保育所を統合した場合、さらに人口減少につながる。
- ・ 保育所再編をする場合は施設を整備してほしい。

3 令和7年度における取組

(1) 進め方

意見交換会やアンケートの結果を踏まえると、同年代の子どもが一定数いることが望ましいと考えている保護者が多い一方で、現在の少人数での保育に満足し、今後の保育所の在り方や再編の可能性について不安を感じている意見も多くあり、これまで以上に、丁寧に議論を進めていく必要がある。

乳幼児期の成長発達における集団での活動や、同年代の子ども同士の関わり合いの重要性を踏まえての在り方検討の必要性など、「本市の保育・保育所に関する考え方」を改めて説明することも必要であり、今後、保育・保育所の在り方や保育所再編に伴う課題について議論する検討会を、保護者や地域に開かれた形(※)で複数回実施し、令和7年度中を目途に、今後の在り方に係る方針を策定していく。

(※) 検討会のメンバーに、保護者や地域の方々に参画していただくことや、検討会の内容を保護者や地域にフィードバックし、意見を伺いながら進めていくことを検討している。

(2) 本市の基本的な考え方

- 3歳児以上の児童については、同年代の子どもがいる集団生活の中で、個の成長と集団としての活動の充実を図れるよう、保育所保育指針に沿った集団保育の中で社会性や人間関係を育む保育環境が望ましい。児童の最善の利益を考え、児童数が減少している中であっても、最大限望ましい保育環境を維持することが最も重要である。

(参考) 保育所保育指針解説より
第1章総則
1 保育所に関する基本原則
エ 子ども相互の関係づくりや互いに尊重する心を大切にし、集団における活動を効果あるものにするよう援助すること。
「年齢が高くなってくると、クラス全体などの大きな集団で仲間と一緒に取り組む場面も多くなる。互いに協力したり役割を分担したりするなど、集団の一員としての立場や他者との関係を経験する。そして、個人で行う場合とは違う楽しさや達成感を味わうとともに、思いを伝え合うことの大切さや難しさ、それぞれの多様な個性や考えなどに気が付いていく。
こうした経験の中で、子どもは、互いを仲間として認め、集団の中で期待される行動や役割、守るべきルールなどを理解するようになる。このように集団で行う活動を中心とする生活に適応していく過程で、同時に、一人一人の思いや個性が十分に発揮されることも重要である。それぞれが集団の中で受け入れられている安心感をもちながら友達と関わり合うことで、遊びや活動の展開は豊かなものとなり、そこでの経験はより広がりや深まりをもつようになる。」

- そのためには、統合を含めた保育所の再編を手段として検討する必要があるが、現在の少人数での保育を望む声や送迎に関する負担など、保育所再編には保護者から不安の声もいただいております。今後も安心して保育所を利用していただくために、引き続き保護者や地域の方々に丁寧に意見を聴きながら、地域の実情を踏まえ、今後の在り方に係る方針を策定する。
- 今後も児童数の減少は見込まれるが、将来にわたって、京北地域で安心して子育てができるよう、地域に根差した保育所として保育の提供を維持するとともに、更なる保育の質の向上や地域の子育て支援に取り組んでいく。